

## 平成 30 年度霞ヶ浦学講座 第 5 講 実施報告

実施日時：平成 30 年 7 月 22 日（日）13:30-15:30 参加者数：22 名

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール 講師：沼澤篤（霞ヶ浦環境科学センター嘱託）

### テーマ：「霞ヶ浦の市民活動の歴史」

**要旨：**「市民とは地域をよくするために知恵を出し、行動できる人」と定義すれば、だれでも市民になり得ます。「霞ヶ浦の市民とは霞ヶ浦を大切にできる人」と分かりやすく定義できます。霞ヶ浦の市民活動は 40 数年前、霞ヶ浦の環境悪化が問題になり、危機感を抱いた市民によって自発的・先進的に開始されました。その市民達が「土浦の自然を守る会」を結成し、湖岸のゴミ回収から始めて、湖水の水質改善、アオコ対策、企業の排水対策などを行政に要望しました。また地域社会に対して、霞ヶ浦の環境への関心を喚起しました。これらの活動は「霞ヶ浦富栄養化防止条例」の制定につながりました。また、第 1 回世界湖沼会議（1984 年）に会員がアオコの瓶詰を展示し、霞ヶ浦の水質悪化の深刻さを訴えました。さらに同会が呼びかけて「霞ヶ浦をよくする市民連絡会議」（1981 年）が結成され、流域の多くの団体や個人が加盟し、アオコ調査や流入河川における一斉水質調査が研究者の協力を得て 10 数年継続され、結果は機関誌などで公表され、全国的に評価されました。

活発化した市民活動は 1986 年に第 2 回水郷水都全国会議を土浦市に誘致し、逆水門問題や水資源開発を中心に、霞ヶ浦を事例として、全国の河川や湖沼の環境改善をめざして熱心に議論したのです。それらの活動に後押しされ、1989 年には民間の霞ヶ浦情報センターが設置され、月刊情報紙を発行し、霞ヶ浦と市民活動の最新情報を客観的に地域社会に提供しました。こうした市民活動の盛り上がりを背景に、茨城県は 1995 年に第 6 回世界湖沼会議を誘致し、国内外から約 8200 人が参加し、霞ヶ浦宣言が採択されました。

この世界湖沼会議を市民参加で成功させようと「世界湖沼会議市民の会」が結成され、「泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル」が開始されました。第 6 回世界湖沼会議後、霞ヶ浦情報センターと世界湖沼会議市民の会が合流して社団法人霞ヶ浦市民協会へと発展し「泳げる霞ヶ浦」を取り戻すことを目標に、様々な活動を行うようになりました。一方 2005 年に茨城県霞ヶ浦環境科学センターが設置され、調査研究、環境学習、市民活動連携支援、環境情報の発信と交流を活動の柱にしています。また「森林湖沼環境税」が活用されています。

このように霞ヶ浦の市民活動の活発化が、世界湖沼会議を二度誘致する上で大きな原動力になりました。また世界湖沼会議開催がその後の市民活動を方向づけた面があります。さらに霞ヶ浦環境科学センターの活動にも反映されています。

霞ヶ浦の市民活動は土浦などの都市部の住民が中心となり、周辺部に波及していききましたが、それ以前に漁業者、政治家、郷土史家、農民運動家等が公共の利益を目指し、市民意識をもって活動した事例もあります。また里山、平地林、筑波山、谷津田、溜池、河川の保全や生物多様性に焦点を当てた活動が流域各地で盛んです。地域社会を構成する多くの人々が市民意識を持って、茨城県の宝である霞ヶ浦の環境保全を目指して活動してきたのです。